



# 八頭町関西事務所だより

令和8年春号

発行元  
八頭町関西事務所

〒530-0001  
大阪市北区梅田1-1-3-2200  
大阪駅前第3ビル22階  
鳥取県関西本部内

【お問い合わせ】  
八頭町関西事務所 谷口  
電話  
090-1688-0308  
Fax  
06-6341-3972  
Mail  
kansai-yazu@opal.ocn.ne.jp



## 上方落語の祭典「彦八まつり」に今年も出店

5月16・17日

大阪ではお馴染みの上方落語の祭典「第33回彦八まつり」が5月16日（土）・17日（日）に生國魂神社で開催されます。

今年も八頭町観光大使の桂慶枝さんとのコラボブース「八頭廻し」にて、八頭町の魅力をお届けします。昨年大好評のエリンギつかみ取り（※16日限定）に加え、北岡本店のフルーツリキュールをはじめとする酒類の販売をします。

「八頭廻し」ブースでお買物をされた方には、八頭町の特産品が当たるガチャに挑戦していただきます。何が当たるかお楽しみに！



また、境内のメインステージでは有名な噺家や芸人が出演し、楽しいイベントが盛りだくさんです。「寄ってらっしゃい・見てらっしゃい・買ってらっしゃい」の楽しいお祭りに皆様も是非いらっしゃい！

### 【一口メモ】

・彦八まつりは、上方落語の始祖『米澤彦八（江戸中期）』を偲びその名を後世につたえるために、彦八ゆかりの地である生國魂神社で毎年開催される上方落語家総出のお祭りです。

・八頭町観光大使の桂慶枝さんは六代目桂文枝（旧三枝）師匠の直弟子です。文枝一門は上方落語の名門であり先代の五代目文枝は、上方落語四天王（六代目笑福亭松鶴、三代目桂米朝、三代目桂春団治、五代目桂文枝）の一角を担いました。

## 大阪モーターサイクルショーに出展

3月20日～22日、インテックス大阪で開催された「大阪モーターサイクルショー2026」に、八頭町観光協会と道の駅はつとが出展しました。前年と同様に、道の駅グッズの販売に加え、レンタルバイクやライダー向けのイベントの紹介を行い、提供サービスのPR・販促をテーマにブースを展開しました。

地域おこし協力隊員の谷内口（やちぐち）さんが約3ヶ月掛けて作成した手描きマップは、1000枚準備するも足りず、2000部準備した八頭町周辺パンフレットも全て来場者の手に渡りました。



出展ブース前にて左から、地域おこし協力隊員・谷内口さん、道の駅はつと、松下駅長、山村副駅長



スズキブース前にて。やずびよんと山村副駅長

また、ブースでは鳥取でのツーリングミッションが入った「ツーリングガチャ」を設置。無料ということもあり、多くの方が利用され、翌日には2名の方が鳥取を訪れたようです。今回の出展では、バイクのツーリング先の候補に隼駅を入れてもらうためのPRも目的としていましたが、イベントの翌週には、手描きマップをきっかけに町内のお店に来て下さった方があり、八頭町の魅力を広げる重要なイベントとなりました。

講談師『旭堂一海』さんってどんな人？



上方講談界で活躍する『旭堂一海(本名:三浦雄一郎)さん(関西八頭町会会員)に、講談界に入ったきっかけやその生活、今後の夢等を伺いました。

○講談界に入ったきっかけは？

小さい時から日本史(特に戦国期)が好きでした。また、吉本新喜劇が好きで大阪芸人になりたいと思っていました。大学では落語研究会に入りましたが、ある落語会でゲスト参加されていた『旭堂一海』さんにお会いし、その講談を聞いたときに、これこそ我が天職だと感じました。早速弟子入りを志願し、ひと月後に入門を許されました。二十歳の時です。本名の『一』と師匠の『海』で『一海』と命名頂きました。

○初めて人前で喋ったのはいつ？

入門当日(令和元年9月8日)で、開演前の10分間(空板(からいた)と呼ぶ)で演じました。演目は『三方ヶ原の戦い』で、入門したての講談師は全員このネタから始めます。

現在、持ちネタは60〜70くらいあります。一番好きなのは『難波戦記(主役:真田幸村)』で、大阪では豊臣勝利、

徳川敗北で語ります。豊臣貞貞や権力への抗いがあるのででしょうか？

○入門後の生活は？

師匠の家に通いながら修行生活です(通い弟子)。師匠は『勝手にせえ』という流儀なので、自分で調べ考えながら覚えます。本探しや料理・血洗いもやりました。師匠が外出のときは同行し、身の周りの世話や前座等を務めます。『年季明け』は3年後(令和4年9月22日)でした。

所属する『なみはや講談協会』一門は7名で家族のようにかわいがって頂いています。最若手なので先輩師匠の前座を務めながら、お茶出し・着物畳み・太鼓叩きもやります。毎日違うところに行き、違う人に会えるのはメチャクチャ楽しいです。

○今後の夢は？

プロスキーヤー『三浦雄一郎』さんと同名なので、幾つになっても活躍し続ける芸人になりたい。そのためにも、旭堂一海でなければできない仕事を増やしたい。また芸を磨くとともに自己プロデュース力も涵養したいです。ふるさとはお世話になりっぱなし。大好きな鳥取を舞台にした話を創ったり、鳥取や上方の人に講談をもっと知ってもらえるように頑張りたいです。

インタビューを終えてー二十歳で飛び込んだ講談界。天職と思う世界で永く活躍したいという意気込みを感じました。講談師(好男子)『旭堂一海』さんの益々の活躍を祈念致します。

ラジオ大阪 八頭町の魅力を発信

3月7日(土)、ラジオ大阪「原田旅行公社です」にて八頭町が取り上げられ、電話インタビューで八頭町観光協会の福本揚子さんが町の魅力を語りました。

地元民に愛される、花見列車としても有名な「若桜鉄道」の沿線名所として、隼ライダーの聖地『隼駅』、寅さんの「男はつらいよ」ロケ地であり手植え桜で有名な『安部駅』、鉄道のお宝グッズを販売する『道の駅はつとう』などが紹介されました。

また、グルメスポットとしてパンケーキや天日卵で有名な「大江ノ郷自然牧場」が紹介されました。会員の皆様にとっても馴染みの深い懐かしい場所が一杯登場しました。「たまには帰って来んさいなー」という故郷からの声が届いたひと時でした。

【今後の主な公演】

- ・5月15日(金)【神田松麻呂 旭堂一海二人会】  
19時00分開演/百年長屋(森ノ宮・玉造)  
料金 予約2,500円、当日2,800円
- ・5月29日(金)【旭堂一海 飯盛講談席】  
14時00分開演/大東市立文化情報センターDIC21(住道)  
料金1,000円
- ・6月4日(木)【桂天吾×旭堂一海ふたり会】  
19時00分開演/百年長屋(森ノ宮・玉造)  
料金2,000円
- ・6月21日(日)【浪曲 講談の幸海実験室】  
14時00分開演/高津の富亭(日本橋)  
料金 予約2,000円、当日2,500円

シリーズ やずをサキドリ！ 初夏 八頭町のさまざまなグルメ情報をお届けします！



新感覚・溶けないアイスバー！？ <ずバー【甘味屋】

石破元総理の愛する「はちみつ饅頭」など、和菓子で有名な甘味屋。夏場の手土産品として、人気上昇中の「<ずバー」をご存知でしょうか。葛粉を使用した新感覚スイーツ。アイスクリームなどとは異なり、溶けても垂れないのが特徴。味は、いちご、みかん、抹茶、ラムネ、コーラの5種類。夏は特にラムネ味が人気。口当たりは柔らかく、すっきりとした甘さを堪能できます。冷凍庫から出してすぐ食べてもよし、解凍時間で違う食感を楽しむのもおすすめ。これからの暑い季節、お越しになった際の甘味に是非、お召し上がりください。

甘味屋 郡家本店 (八頭町郡家119-1 ☎0858-72-0651)